

生成AIの開発力強化へ GENIACプロジェクトスタート

経産省は、生成AIの開発力を強化していくため、基盤モデルの開発に必要な計算資源に関する支援や関係者間の連携を促すプロジェクト「GENIAC (Generative AI Accelerator Challenge)」を開始した。生成AIは、インターネットに匹敵する技術革新と言われており、労働力不足や社会課題の解決にも貢献すると期待されている。あらゆる産業での活用が期待されている。生成AIの開発力の有

無は、国内のAIの利用可能性や、創出するイノベーションの幅を決し得る要素であり、国際的に開発競争が激化する中、速やかに開発力を強化していくことが重要だ。

このプロジェクトを、GENIACと称し、生成AIのコア技術である基盤モデルの開発に対する計算資源の提供支援や、関係者間の連携促進、対外発信等をスタートさせる。

基盤モデルを開発する上では、計算資源の確保が大きな課題となる。NED

Oが実施する「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業」活用し、計算資源の確保と利用料補助という形で支援していく方針。

詳細は https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/geniac/index.html

た。

20代の頃に乱読した自己啓発本を思い出し、ある種の懐かしさを感じながら今だからこそ腹落ちする言葉に出会います。「巻き込む力を持って!」、「『はよせんかい!』で大企業に勝つ!」、「ちよつと頑張る、それを続ける」などは、自分の小さな実績を重ね合わせて得心の内容でした。

次に、耳に痛い言葉が続きます。「挨拶」の持つ力をあなどってはいけない、「相手に寄り添うには情報収集が必要!」など、実践が足りておらず反省し

最後に、己の未熟さを痛感する言葉。「水は高きより低きに流れる」が説く視点は、自分に欠けているものでした。

「誰でもいつでも、この本からの学びを実行すれば、知識が知恵に変わって、実績が上がるのが分かるぞ。」そんな先生の想いを感じた読後感でした。



〈12〉 山崎 遊

応援される人 42の言葉

本コラム第7回でご紹介した、元田中角栄秘書で一流塾塾長でもある一柳良雄先生の著作『応援される人 42の言葉』(日経BP 日本経済新聞出版)を読みまし

きりです。

派閥のパーティ資金を 収支報告書に記載しなかつた問題で、自民党最大派閥の安部派(清和政策研究会)が解散に追い込まれた。元々、田中角栄氏が率いた、金権体質の田中派に對抗して、福田赳夫氏が金権政治を打破する目的で作られたのが「清和会」である。

清貧を旨として、一派を率いたが少数数ゆえの貧乏所帯が長く続いた。NHKの委員を務めた、弊紙顧問を務めた斎藤栄三郎氏は政党内であり、福田氏に見初められ、3度の選挙資金は田園調布

の自宅を売却して選挙資金にして、選挙に臨んでいた。そのような派閥が、今や金にまみれ、もともとの理念はどこへやら。歴史の皮肉というべきか、田中派と同じ運命をたどっている。当時の政治改革から、税金による政党交付金が支給され、その範囲で政治活動を行うはずが、政策活動費の使い道は領収書もなく、パーティ費用は裏金化してしまつた。

このザル法である政治資金規正法を、しっかり立て直し、見直さないと、たださえ怪しくなってきた「民主主義」の崩壊につながる。政治家は襟を正さなければ、またファシズムの風が吹き荒れそうだ。



今年は日本でWRS (ワールドロボットサミット) が日本で開催されることになった。協働ロボットがさらに注目されるだろう

経済産業の先行きがわかる、読める、つかめる「経済産業新報」

紙面購読の方には無料で電子版を配信致します!

KSデジタルスタート!
 経済産業新報は新興企業や新ビジネスを応援しています。

経済産業新報 電子版の特徴

※ITCの方にはポイントがつきます

紙面イメージをそのまま読めます!

リアルタイム人事ナレッジ!

2015年からのバックナンバーも閲覧できます!

キーワードや期間で記事横断検索が可能!



電子版無料配信または電子版のみプランのお申込みはホームページ、もしくはURLまたはQRコードから

お問い合わせ 経済産業新報社 TEL: 03-3441-1391 メール: info@keizaishinpo.jp



経済産業新報

検索

お申込みフォームURL <http://kspress.biz/subscription>